ご霊水と共に

発行　法華寺
No.30
2025.7
河南町加納 247
☎0721933023

まいてら法華寺　検索

寄り添いの寺 法華寺　検索

お施餓鬼法要の報告です

今夏の暑さは、ことのほか厳しく、緑多い山寺といえども、當山の境内や本堂も七月初旬よりずっと気温が高い日が続いておりました。参詣の皆様が、少しでもこころ穏やかに供養に向き合っていただけますように設置した空調設備も、役立ったようで、ひと安心しております。

ただ、送迎タクシーの順番待ちの際に、日陰が無く、暑い思いをなさったようです。今まで、気が付かなかったことでした。今後は、順番待ちの行列についても、スムーズに流れるように工夫を考えておりますので、安心してお参りください。

「お参りしてよかった」「供養して気持ちがスッキリした」と言っていただける法要を目指して行きたいと考えております。

御会式法要です

十月十三日は、日蓮大聖人がご入滅された日です。日蓮宗・法華宗寺院では、毎年十月末から十一月にかけて、「御会式」と言って、日蓮大聖人の遺徳を讃える法要を営みます。今年は七百四十四回目の御会式になります。

法要では「恩山（おんざん）の一塵（いちじん）、徳海（とっかい）の一滴（いってき）に謝（しゃ）し奉る」とお唱えします。それは、「日蓮大聖人の教えから学び、受けた恩は山のように大きく、大聖人の徳は海のように深いけれど、せめてその塵のひとつ、一滴のしずくでも、感謝の気持ちをお返したい」という意味です。

「感謝は返謝してこそ、完成する」は、作家北川八郎氏の言葉です。謝意を社会に還元すること、たとえささやかなことでも、それが僧侶の務めだと思っています。

九月六日　三十番神法要　謹修

「神仏習合」は、飛鳥時代の仏教伝来以降、日本古来の神々と、新しく伝わった仏教との融合により生まれたものです。「仏は、人々を救うために神という姿で現れる」という考え方で、人々は神は仏と同じものとして信仰していました。

日蓮宗・法華宗では、特に「三十番神」さまをお祀りしています。それは、若き日の日蓮大聖人が、比叡山で修行をされていた頃、大聖人が読む法華経を、全国各地から三十柱の神々が聞きに現れたという云われによります。

二年前に修復が完了した、「三十番神」ご尊像の前で、九月六日、「疫病退散・心願成就」の御祈祷を行いました。お供え物は、檀信徒さまからいただいた「お菓子」や「果物・お野菜」です。日持ちのするお菓子類は「おてらおやつくらぶ」の取り組みとして、貧困家庭・子ども食堂にお届けしました。また、ご参拝の方、また北加納村の方には、「厄除けのお札と豆菓子」をお配りしました。たくさんのお供え、本当にありがとうございました。

※「おやつくらぶ」のお菓子は随時受け付けております。